



ViewFramer ユーザーガイド kintone ver. (PDF/一覧)

Ver.1.4

改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/09/30	新規作成
1.1	2020/05/18	5.6 出力条件の設定について修正
1.2	2020/11/09	出力バージョンの違いについて追記
1.3	2021/12/02	3.4 その他のコンポーネント を追加 ラベルの「動的」にチェックを入れる操作について強調するよう編集
1.4	2023/08/07	「5.4 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定」に注意事項を追記

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。
なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

本書の使い方

本資料では、簡単な帳票見本を作成する中で、ViewFramer をご利用するにあたって最低限必要な基本操作手順を理解することを目的としています。

帳票出力には、kintone アプリストアからサイボウズが提供している標準アプリを使用しています。

各画面のボタンやコンポーネントの詳細などについては製品ヘルプをご参照ください。

本書の表記

本書では、以下の表記で記載しています。

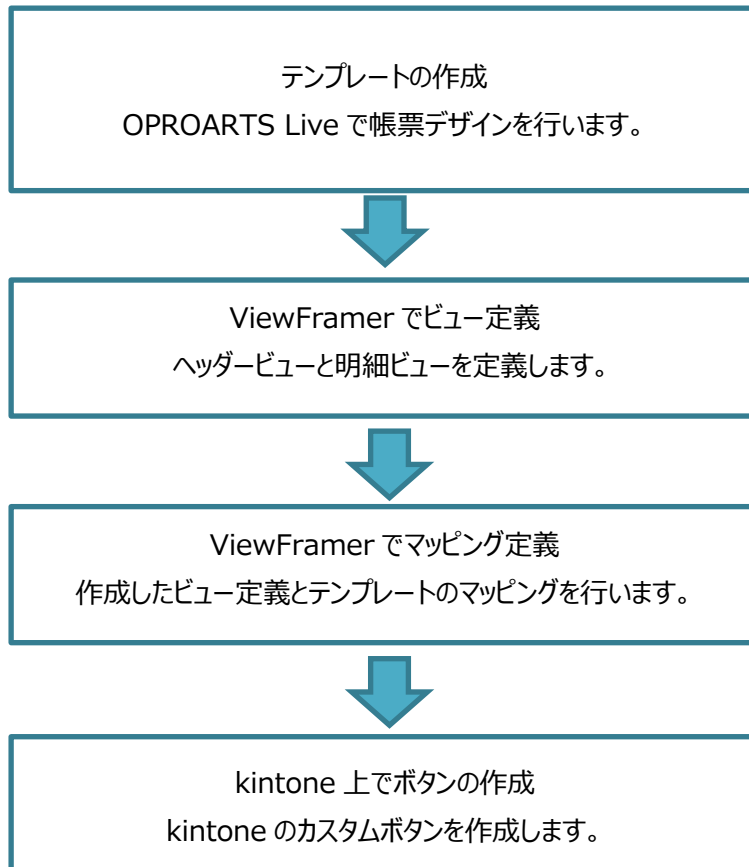
表記方法	内容
注意	操作上の注意事項について記載しています。
Point	操作上で知っている便利なポイントについて記載しています。
参照	本書における参照先を記載しています。
[]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。

目次

1. はじめに	5
2. 全体の流れ	6
3. テンプレートのデザイン	7
3.1 テンプレートの新規作成	8
3.2 基本操作の紹介.....	9
3.3 実際に作る	11
3.4 その他のコンポーネント	16
4. 項目のマッピング	18
5. ビュー定義	22
5.1 ViewFramer ログイン	22
5.2 ビューの作成.....	24
5.3 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定.....	24
5.4 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定	25
5.5 ビュー定義: 詳細画面 - 出力項目設定	27
5.6 ビュー定義: 詳細画面 - 出力条件.....	28
6. マッピング定義	29
6.1 マッピングの作成.....	29
6.2 マッピング管理: 詳細画面	29
6.3 マッピング管理: 出力設定画面	30
7. 出力ボタンの作成	32

2. 全体の流れ

ViewFramer では、以下のような流れで帳票出力が可能になります。



3. テンプレートのデザイン

出力したい帳票の見た目を OPROARTS Live でデザインします。

本ユーザーガイドでは、以下のような帳票を出力するためのテンプレートを作成します。

商談一覧

完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額
① 2100/12/31	山田 桃太郎 ②	商談1 ③	サンプル取引先 ④	⑤ 10,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談2	サンプル取引先	20,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談3	サンプル取引先	30,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談4	サンプル取引先	40,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談5	サンプル取引先	50,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談6	サンプル取引先	60,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談7	サンプル取引先	70,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談8	サンプル取引先	80,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談9	サンプル取引先	90,000

⑥

Page 1

番号	内容
①	案件アプリの受注予定日項目
②	案件アプリの営業担当者項目
③	案件アプリの案件名項目
④	顧客情報アプリの会社名項目
⑤	案件アプリの受注金額項目
⑥	ページ番号

番号を振っていない部分の文言は固定文言です。任意の文言を配置、もしくは何も配置しなくても問題ありません。

※「案件情報アプリ」と「顧客情報アプリ」は kintone アプリストアの「営業支援(SFA)パック」のものを使用しています。

注意 後の設定で使用するため、アプリの設定から「顧客情報アプリ」に「レコード番号」項目を追加してください。

※本テンプレートは帳票テンプレートの構造を理解するため、敢えて非常にシンプルな構成にしています。

このマニュアルで使用しない各帳票コンポーネントは以下の章で紹介していますので、必要に応じてご参照ください。

[その他のコンポーネント](#)

3.1 テンプレートの新規作成

OPROARTS Designer にログインし、左上の[新規作成]をクリックします。

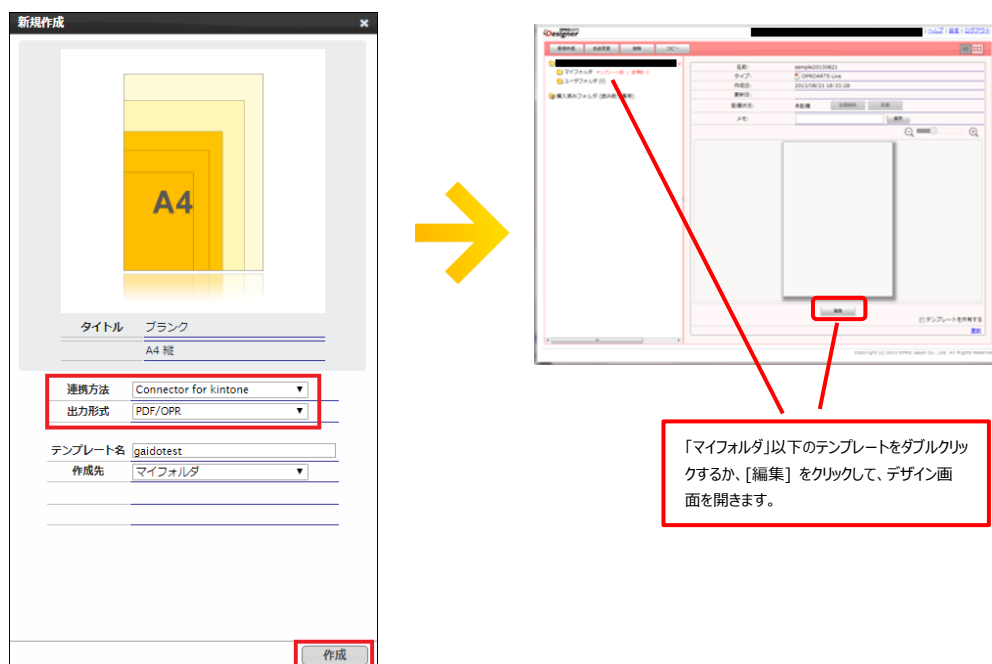


ここでは、[ブランク] タブで A4 縦を選択します。

連携方法「ViewFramer/D3Worker」、出力形式「PDF/OPR」を選択してください。

以下のルールに従って任意のテンプレート名を入力し、[作成] をクリックしてください。

- 使用できる文字は、英数字とアンダーバー
- 先頭の文字はアルファベットである
- 最後の文字がアンダースコアでない
- アンダーバーが 2 個以上連続していない

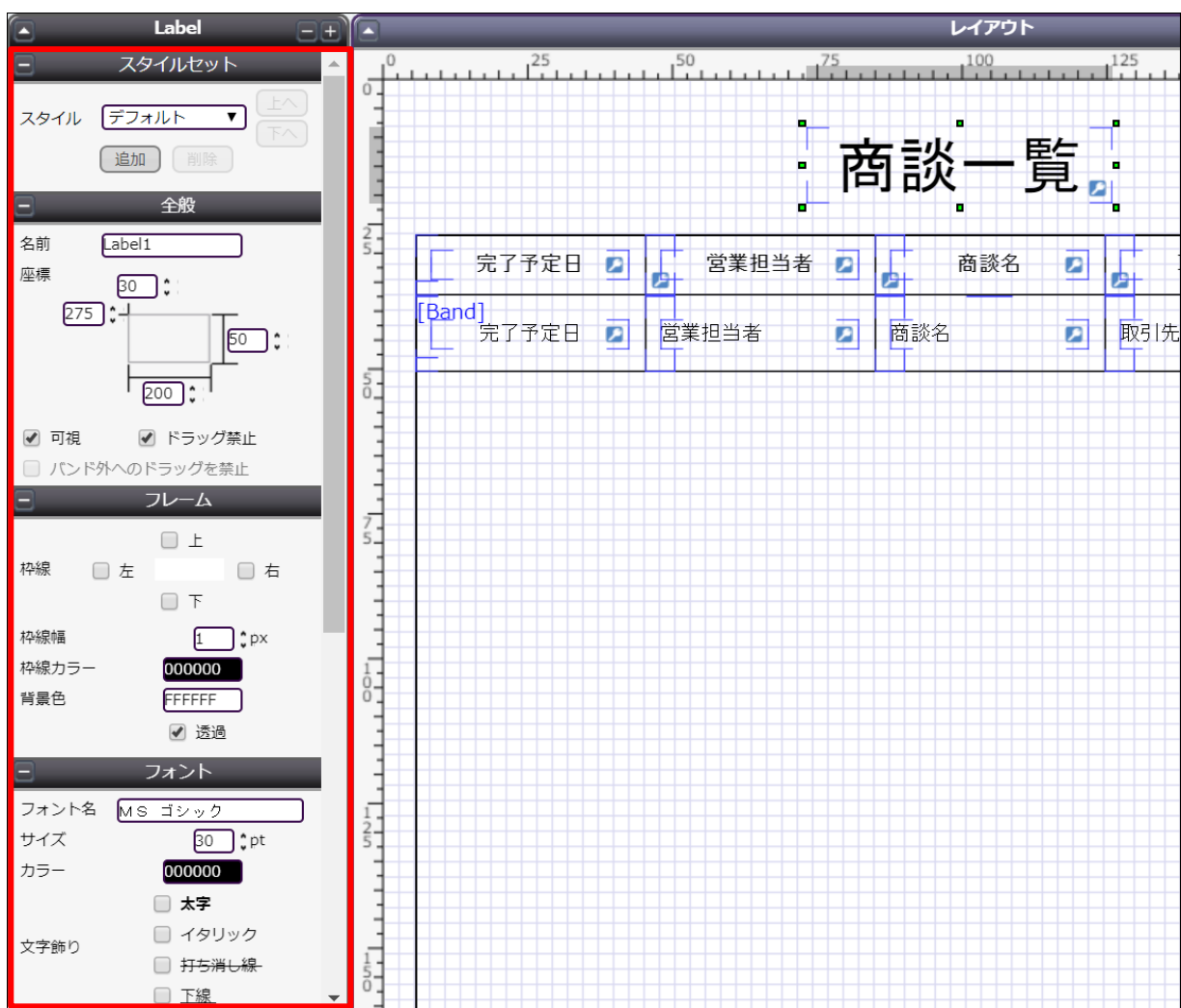


3.2 基本操作の紹介

左上にあるコンポーネントのリストから配置したいコンポーネントを選択してからレイアウト上をクリックすることで選択したコンポーネントを配置できます。



また、画面左側に現れるプロパティを変更することで現在選択されているコンポーネントの詳細を設定できます。



その他に、知っておくと便利な基本のショートカットキーをご紹介します。

ショートカットキー	動作
[Ctrl] + [矢印 (↑↓←→)]	コンポーネントを 1px ずつ移動
[Ctrl] + [Shift] + [矢 印 (↑↓←→)]	コンポーネントをグリッドの間隔単位で移動
[Shift] + [矢印 (↑↓←→)]	コンポーネントのサイズを変更
[Ctrl] + 選択	コンポーネントを複数選択する(※)
Ctrl+Z	取消
Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+X	切り取り
Ctrl+C	コピー
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+A	全て選択(※)
Esc	選択解除
Delete	削除

(※)以下のコンポーネントを組み合わせ、同時に選択することはできません。

- ・他のコンポーネントを内包するコンポーネント
- ・他のコンポーネントに内包されたコンポーネント

3.3 実際に作る

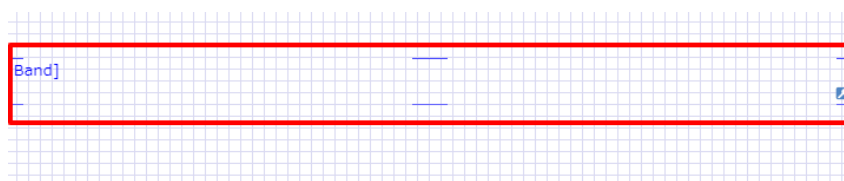
ここでは、実際にテンプレートをデザインしながら Live の使い方を学んでいきます。

1. データセットテーブルを設置

DataSetTable コンポーネントを配置して、明細部分のレイアウトを作成します。

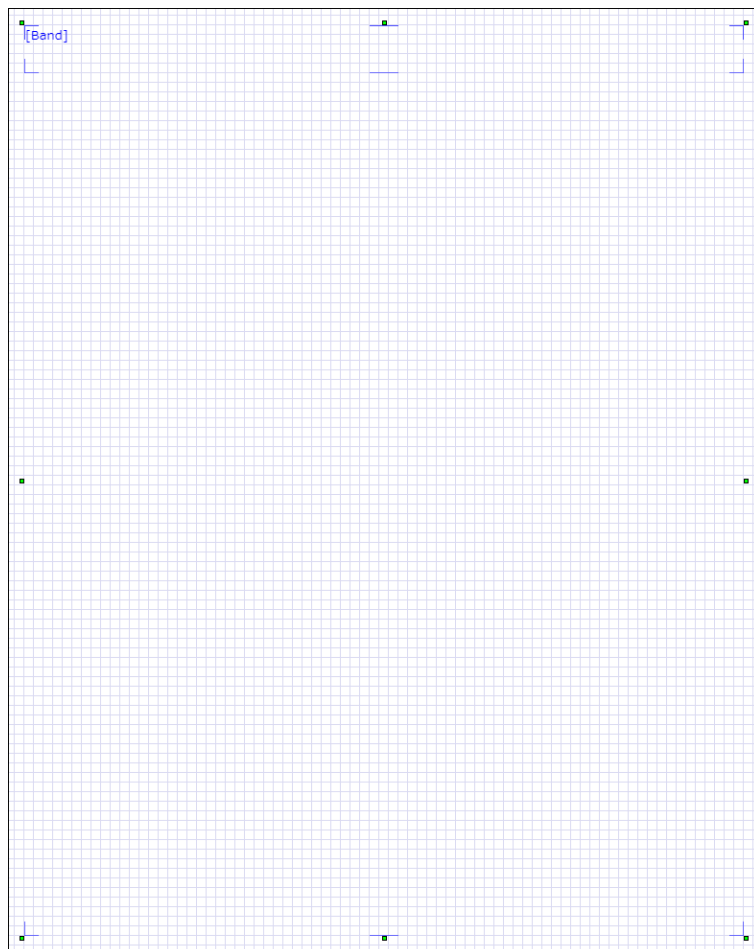


DataSet Table コンポーネントの中に、Band というコンポーネントがあります。



この中に配置されたコンポーネントは、明細として表示されるレコードの数だけ繰り返し表示されます。

明細行の表示範囲を広げるため、コンポーネントの下辺をドラッグ&ドロップして DataSet Table コンポーネントの縦幅を広げます。

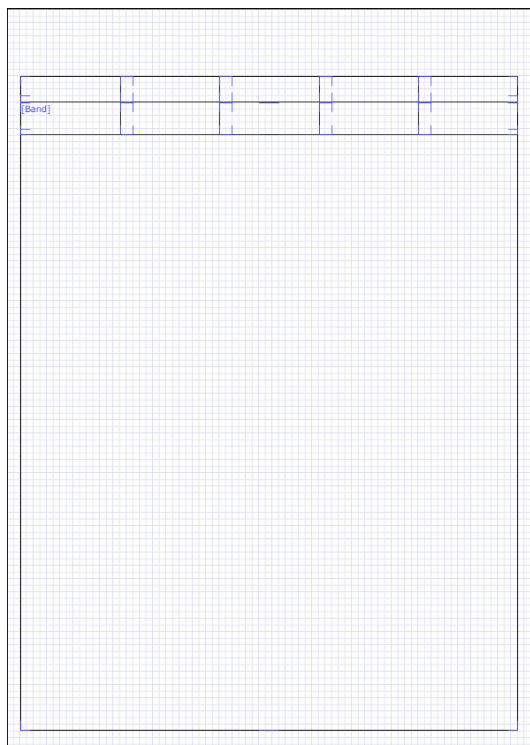


2. 罫線や枠線を引く

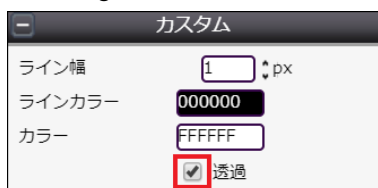
Line コンポーネントや Rectangle コンポーネントを配置することで仕切り線を引くことができます。



Rectangle コンポーネントで Dataset Table コンポーネントの周りに囲み線を、
Line コンポーネントで Dataset Table (Band) 内に仕切り線を引きます。



Rectangle コンポーネントの背景色は、画面左「カスタム」の「透過」にチェックを入れることで透明にできます。



Line コンポーネントの線の向きや太さは画面左「カスタム」と「ライン」で設定できます。

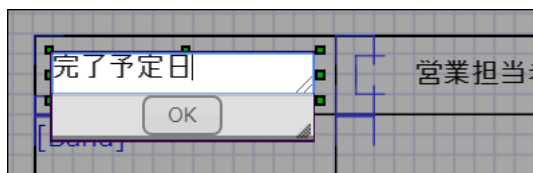


3. 固定文字列を表示するラベルを配置する

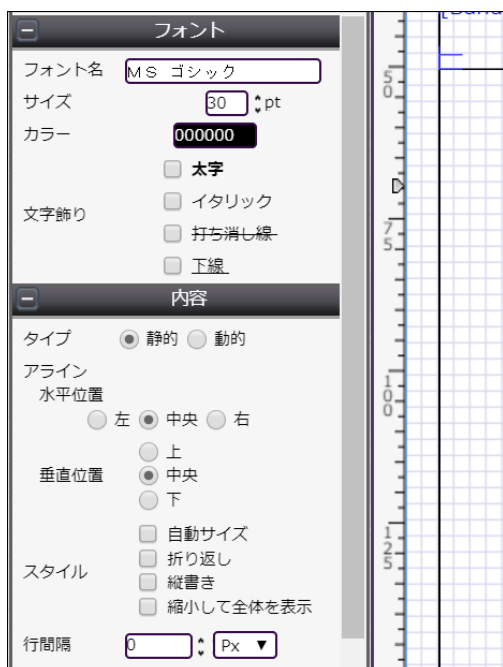
出力元のレコードによって変わらない文字列を表示したい箇所には、Label コンポーネントを配置します。



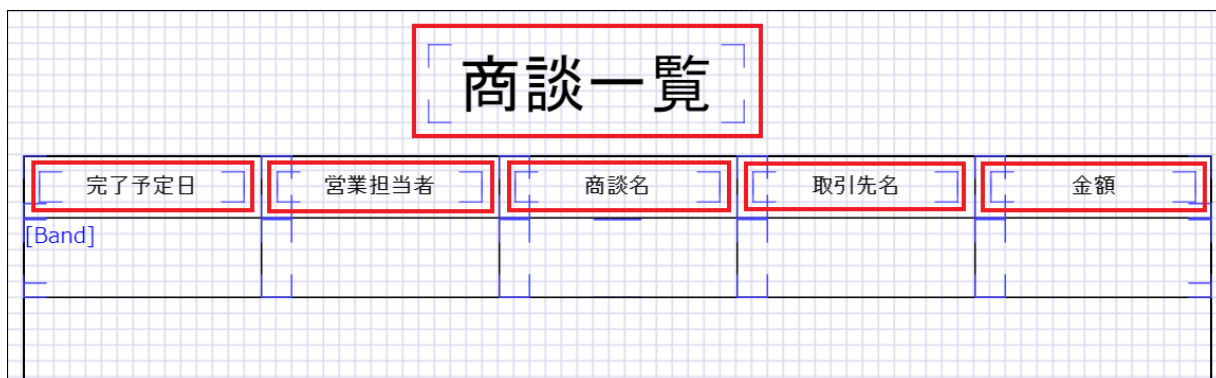
配置した Label コンポーネントをダブルクリックすることで、表示する文字列を編集できます。



文字のサイズ、配置、フォントなどは画面左の「フォント」と「内容」から設定できます。



以上の工程を繰り返し、帳票のタイトルと各明細行に表示したい項目の項目名を配置します。



4. 動的文字列を表示するラベルを配置する

Salesforce のオブジェクト項目の値を表示したい部分にも、同じく Label コンポーネントを配置します。



ラベルの詳細内容は以下のように設定します。

※ここでは取引先名を表示するラベルを一例として取り上げています。配置したそれぞれのラベルコンポーネントに合わせて設定してください。

	<ul style="list-style-type: none">■ タイプ このラベルは取引先名の値を表示するので、「動的」に設定します。固定文言の場合、「静的」を指定します。■ アライン 水平位置、垂直位置ともに、ラベルのどの位置に文字が表示されるのか指定します。■ スタイル 文字数が多くても全体が表示されるよう、「縮小して全体を表示」にチェックを入れます。■ 行間隔 行の折り返しはしないので、0 のままにしておきます。
--	--

各明細行に表示したい項目ごとに動的ラベルを配置します。

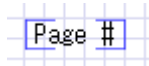
商談一覧				
完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額
完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額

5. ページ番号を挿入

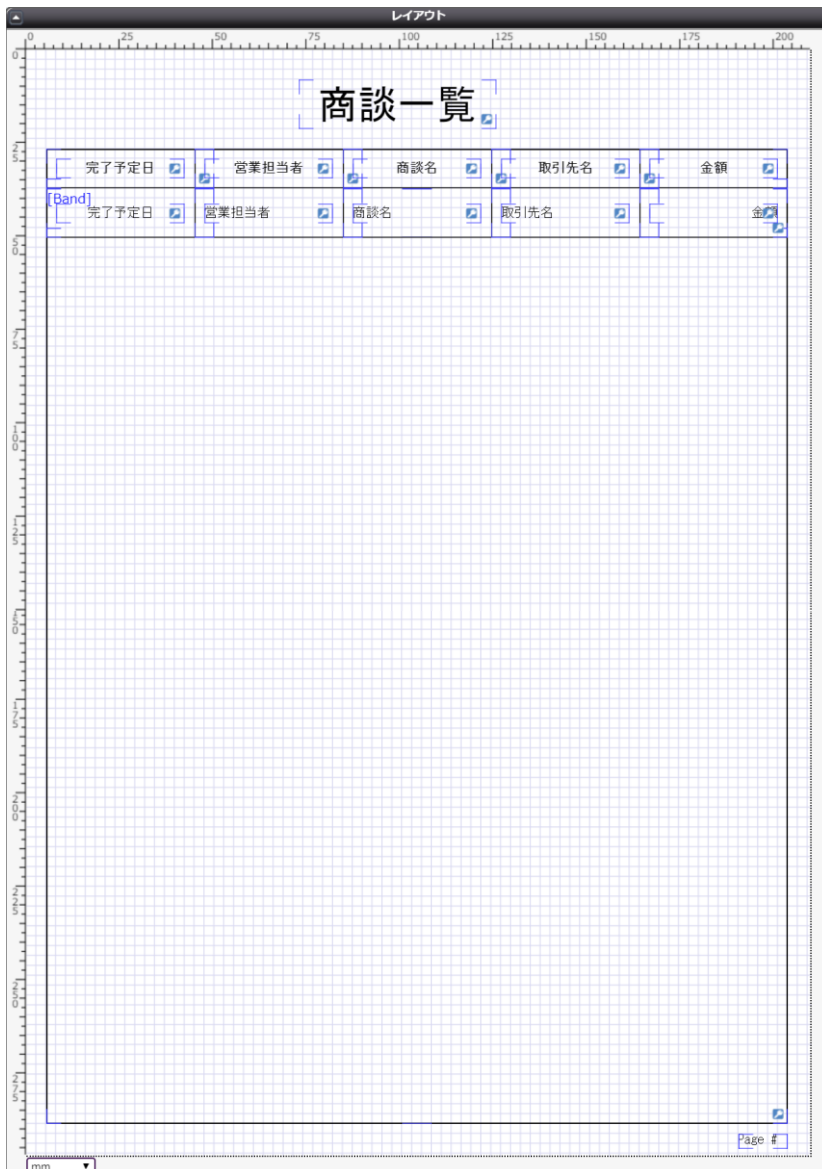
レイアウト右下にページ番号を配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



完成したレイアウトは以下です。



デザインが出来上がったら、保存ボタン(📁)をクリックして、矢印ボタン(➡)でマッピングへ進みます。

3.4 その他のコンポーネント

ここでは、3.3 までに紹介したコンポーネントを含む全ての使用可能なコンポーネントについてリストアップして説明します。



番号	名称	機能
1	Line	レイアウトにラインを描画します。
2	Rectangle	レイアウトに正方形・長方形を描画します。
3	Circle	レイアウトに円・楕円を描画します。
4	Label	レイアウトにテキストを表示します。テキストは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時に データソースの値を動的に適用することもできます。
5	Image	レイアウトに画像を挿入します。画像は、 ・お使いのブラウザよりアップロードされたもの ・外部サーバから URL で取得できるものを設定できます。
6	Barcode	レイアウトにバーコード画像を挿入します。Barcode の元となるデータは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
7	Page Number	レイアウトにページ番号を表示します。コンポーネント毎に、ページ番号の採番・表示ルールを設定することができます。
8	Total Page Number	レイアウトに総ページ数を表示します。ただし、OPR 形式での出力のみ有効なコンポーネントです。
9	Dataset Table	データソースのデータとリンクし、バンドを使用してレイアウトにテーブルを作成します。Dataset Table コンポーネントは、内部に Band コンポーネントを持ちます。
1 0	Horizontal Dataset Table	データによって明細行が右方向に伸びる点を除き Dataset Table コンポーネントと同じです。
1 1	Container	内部に複数 DatasetTable を配置可能なコンポーネントです。Container 内に二つの DatasetTable を配置して出力すると、最初の DatasetTable にテーブルの内容すべてを表示した後、二番目の DatasetTable にテーブルの内容を表示します。

Dataset Table 内に設定できるコンポーネント

名称	機能
Band	Dataset Table コンポーネントに繰り返し領域（明細行）を描画します。Dataset Table 配置時に内包されています。
Report Header	Dataset Table コンポーネントにレポートヘッダ領域を描画します。レポートヘッダは、繰り返し領域（明細行）の前に1度だけ描画されるヘッダです。
Report Footer	Report Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにレポートフッタ領域を描画します。レポートフッタは、繰り返し領域（明細行）の後に1度だけ描画されるフッタです。
Column Header	Column Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにカラムヘッダを描画します。カラムヘッダは Dataset Table の明細行の直前に描画されるヘッダです。見出しの役割をします。
Group Header	Group Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループヘッダを描画します。グループヘッダは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のヘッダを描画します。
Group Footer	Group Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループフッタを描画します。グループフッタは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のフッタを描画します。

4. 項目のマッピング

デザインしたテンプレートに CSV データ項目をマッピングします。

1. 画面左上の「コンポーネントグループ」内「DatasetTable1」について、CSV 定義を追加します。



「DatasetTable1」にチェックを入れ、[CSV 定義を追加]をクリックします。



2. CSVデータのフィールドを決定します。
[フィールドを定義]をクリックし、[追加]ボタンでフィールドを追加します。

Dataset Table1

1. DatasetTable1 向け CSV

フィールドを定義 マッピング

↑ ↓ 削除

CSV 定義

区切り記号付き 固定長

フィールド区切り記号 ▼

文字列の引用符 ▼

先頭行を無視する

データ出力条件

フィールド名	データタイプ	形式
CloseDate	text	
Owner	text	
Opportunity	text	
Account	text	
Amount	number	

追加 削除 上へ 下へ 形式の読み込み... サンプルCSV

※「先頭行を無視する」のチェックを必ず外してください。外さないと、CSV データが正しく連携されません。

3. フィールドを追加したら[マッピング]をクリックし、それぞれのフィールドについてテンプレートのどの動的項目と対応するかを決定します。

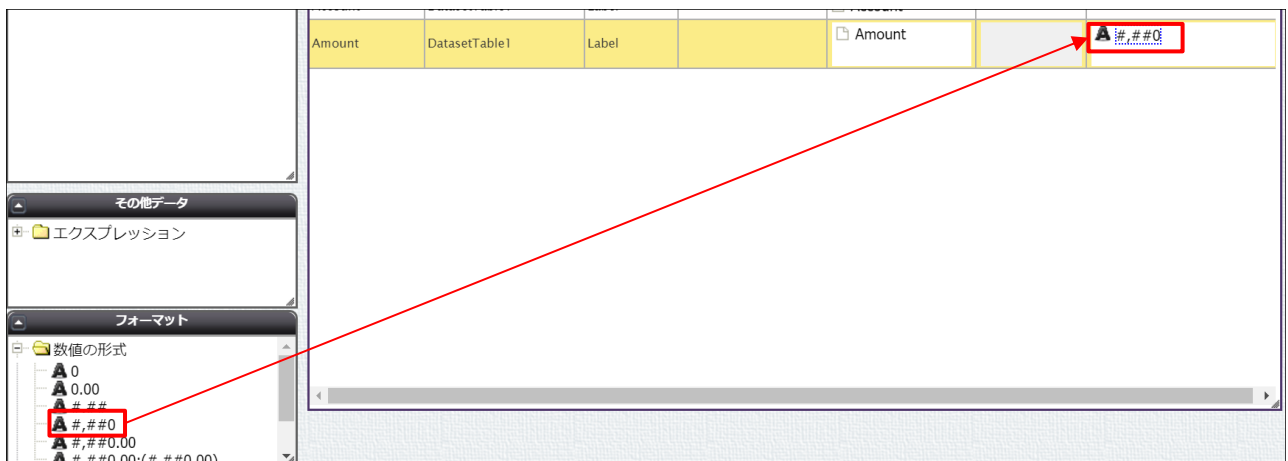
設定したいフィールドの行をクリックして、画面左側の「CSV フィールド」から対応させたい項目を「データ」欄にドラッグ&ドロップします。

Dataset Table1



コンポーネント	コンポーネントグループ	タイプ	スタイル	データ	集計関数	フォーマット
CloseDate	DatasetTable1	Label		CloseDate		
Owner	DatasetTable1	Label		Owner		
Opportunity	DatasetTable1	Label		Opportunity		
Account	DatasetTable1	Label		Account		
Amount	DatasetTable1	Label		Amount		#,##0

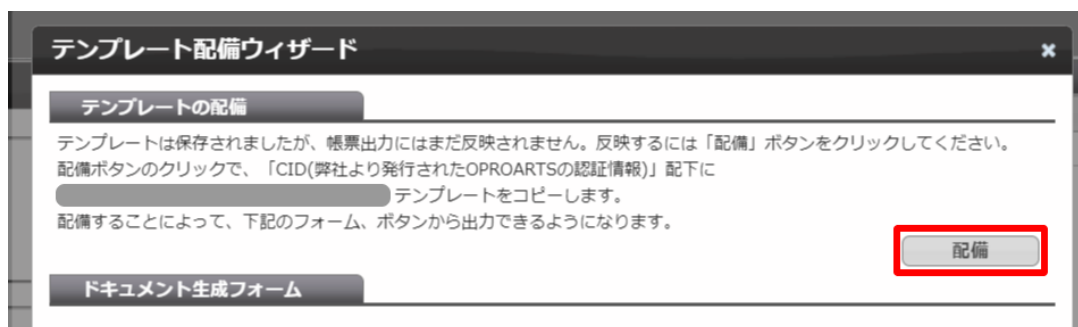
「フォーマット」に好みのフォーマットをドラッグ&ドロップすることで、表示の形式を指定できます。



4. マッピングが終わったら、[保存]をクリックします。



5. テンプレート配備ウィザードにて[配備]をクリックしてテンプレートを帳票出力に使用できる状態にします。



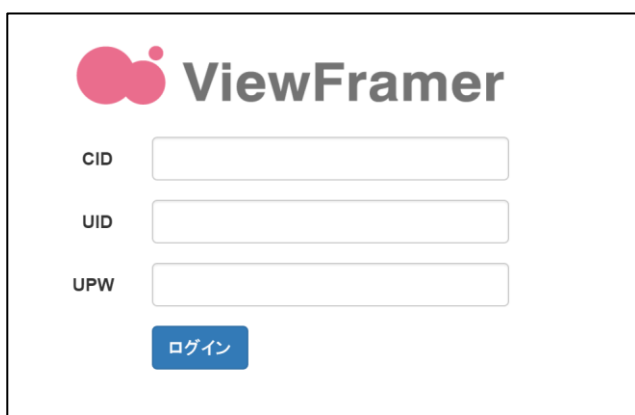
※テンプレートの編集をした際も、必ず[配備]をクリックしてください。配備をしないと変更点が帳票出力に反映されません。

5. ビュー定義

ViewFramer でビューを定義します。

5.1 ViewFramer ログイン

最初に、https://vfui.ap.oproarts.com/view_framer_ui にアクセスし、OPROARTS 認証情報を入力して ViewFramer にログインします。



The image shows the ViewFramer login interface. It features the ViewFramer logo at the top left, consisting of two overlapping pink circles and the text 'ViewFramer'. Below the logo are three input fields: 'CID', 'UID', and 'UPW'. At the bottom of the form is a blue button labeled 'ログイン' (Login).

次に[認証情報]タブを開き、kintone へログインします。



The image shows a Kintone login form titled 'ログイン' (Login). It includes a dropdown menu for '環境' (Environment) set to 'kintone', a 'サブドメイン' (Subdomain) field with 'aaaa', a 'ユーザID' (User ID) field with 'admin', and a 'パスワード' (Password) field with '*****'. There is also a 'ゲストスペース' (Guest Space) section with a radio button and a 'スペースID' (Space ID) field. At the bottom, there are two buttons: '現在のセッション情報を継承する' (Inherit current session information) and 'ログイン' (Login).

帳票出力に利用するアプリがスペースにある場合は、スペースIDを入力する。

5.2 ビューの作成

「ビュー」タブで「新規」ボタンをクリックします。



kintone にログインします。

(以降「現在のセッション情報を継続する」でもログイン可能です。また、以降のスライドではこの画面を省略しています。)



5.3 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定

基本設定では、ビューの名前とタグ(任意)を設定します。

タグは ViewFramer 内で作成したビューを検索する際のキーワードで、何も指定しなくても構いません。

ビューの名前を設定し、「次へ」をクリックします。例では、「OpportunityList」としています。

※ ビュー名は半角英数で入力してください。



5.4 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定

リレーション設定では、ビューで用いる kintone アプリを設定します。

主オブジェクトに「案件情報」を選択し、ショートネームを入力します。任意ですが、例では以下のように指定しています。

案件情報 = Opportunity 顧客情報 = Account

関連オブジェクトには「顧客情報」を指定します。設定は以下の画像をご参照ください。

設定をしたら「次へ」をクリックします。

ビュー: 定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

リレーション設定

主オブジェクト 案件情報 Opportunity (主オブジェクトのショートネーム)

No 関連オブジェクト

1 顧客情報 Account

No	項目名	演算子	オブジェクト	項目名
1	会社コード	等しい(=)	0-案件情報	会社コード

取引先と商談を結びつける条件を設定

一覧に戻る 戻る 元に戻す 次へ 保存

<補足>

ルックアップ項目は、参照先アプリへのリレーションを貼らなくても表示することができます。

しかし、参照先の項目名が変わった時に、kintone のレコードを更新しないと自動的に新しい値には変わりません。そのため、参照元アプリから取得をするように設定をすると便利です。

例えば、[顧客情報]に「会社コード」項目を作成し、[案件情報]では「顧客名」の参照時に自動登録されるようにしておきます。ViewFramer のリレーションで会社コードによる参照をしておくことで、[顧客情報]の会社名が変更されても、kintone レコードを更新し直す必要なく帳票上に新しい顧客名を表示できます。

顧客情報		案件情報			
会社コード	会社名	顧客名	部署名	ご担当者名	会社コード
003	テスト株式会社	テスト株式会社			003

リレーション設定

主オブジェクト 案件情報 anken

No 関連オブジェクト

1 顧客情報 kokyaku

No	項目名	演算子	オブジェクト	項目名
1	会社コード	等しい(=)	0-案件情報	会社コード

注意

複数のスペースの内容を1つのビューにまとめることはできません。

5.5 ビュー定義: 詳細画面 – 出力項目設定

出力項目設定では、帳票に出力する項目を指定します。

「全項目を追加」ボタンで kintone アプリのすべての項目を追加することもできますが、一つずつ追加する場合は「+」ボタンをクリックして項目を増やし、「項目ビルダー」から内容を指定します。

「出力項目名」を OPROARTS Live のテンプレート上で定義されている CSV の項目名と同じにしておくと、後の手順で自動的にマッピングすることができます。

ビュー: 定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

出力項目設定

対象取得元 Opportunity 全項目を追加

No	項目	項目ビルダー	ソート	グループ	出力項目名	
1	FORMAT_DATE(Opportunity.受注予定日, 'yyyy/	項目ビルダー	順	昇順	CloseDate	+ -
2	Opportunity.営業担当者	項目ビルダー	順	昇順	Owner	+ -
3	Opportunity.案件名	項目ビルダー	順	昇順	Opportunity	+ -
4	Account.会社名	項目ビルダー	順	昇順	Account	+ -
5	Opportunity.受注金額	項目ビルダー	順	昇順	Amount	+ -

項目ビルダー

テンプレートのCSVフィールド名と同じにする。

「列追加」ボタンをクリックし、オブジェクトと列を選択して追加します。

列追加ボタン

項目ビルダー

列追加

オブジェクト 列

o 商談名 挿入

OK キャンセル

AND OR NOT

OK キャンセル

関数を使用することも可能です。上の設定例では、完了予定日を整形して表示するために FORMAT_DATE(Opportunity.受注予定日, 'yyyy/MM/dd')と記述しています。

項目ビルダー

列追加

FORMAT_DATE(Opportunity.日付, 'yyyy/MM/dd')

関数

選択された関数を挿入

すべての関数

演算子 AND OR NOT

関数を選択可能

OK キャンセル

5.6 ビュー定義: 詳細画面 – 出力条件

レコードの抽出条件を設定できる画面です。

Opportunity の「+」ボタンをクリックして、帳票に出力するレコードの条件を指定します。

ここでは「Record_Number」という名前のパラメータを用意します。

出力条件を「いずれかと等しい (IN)」にすることで、このパラメータには kintone の画面で一覧に表示されているレコードのレコード番号が全て入り、パラメータに含まれる全てのレコード番号について ViewFramer はレコードを出力対象として取得します。

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No 取得元

1 Opportunity Limit 未設定の場合は200,000が設定されます

No	項目名	演算子	条件値
1	レコード番号	いずれかと等しい(IN)	パラメーター名 Record_Number

2 Account Limit 未設定の場合は200,000が設定されます

No	項目名	演算子	条件値
----	-----	-----	-----

すべての設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存

注意 出力条件を「いずれかと等しい (IN)」にしないと、一覧出力ができません。

6. マッピング定義

各ビューを一つのデータの固まりとしてまとめ、帳票テンプレートと紐づける「マッピング」の定義を行います。

6.1 マッピングの作成

最初に、「マッピング」タブを開いて「新規」ボタンをクリックします。

マッピング ビュー CSVオブジェクト 表示設定 認証設定

マッピング：一覧

新規 インポート

作成者

マッピング名

6.2 マッピング管理: 詳細画面

マッピング名とタイプを指定します。タイプは「一覧型」を選択してください。

明細データには、明細ビューを指定します。

設定ができれば、「次へ」をクリックしてください。

マッピング：定義

マッピング名 OpportunityList

タグ (Enterキーで確定)

タイプ 一覧型

ビューの編集を許可する

明細データ 明細 + -

ビュー OpportunityList 取得

明細ビューの項で作成したビューを選択し、「取得」ボタンをクリックしてください。

明細データの名前をつけます。英数日本語が使用できます。

検索結果	
1	CloseDate
2	Owner
3	Opportunity
4	Account
5	Amount

戻る 元に戻す 次へ

6.3 マッピング管理: 出力設定画面

[出力確認]タブの「データ表示」で取得データの確認を行えます。
問題がなければ、[Documentizer]タブをクリックします。

マッピング：定義 (Simple Mapping)：出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

出力情報確認

添付CSVファイル

文字コード UTF-8

ファイル リクエストパラメーター名

ファイルを選択 選択されていません

パラメーター

Record_Number

データ表示 出力バージョン Ver.3

ヘッダー

明細

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配備

Point データ表示の際に、出力バージョン(※)の指定が可能です。

パラメーター

Record_Number

データ表示 出力バージョン Ver.3

Ver.2

Ver.3

ヘッダー

※出力バージョン切り替えの詳細については、以下ページをご参照ください。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(kintone\)](#)

注意 ここで指定した出力バージョンが、後に kintone 環境に設置する帳票出力ボタンの挙動に影響することはありません。

帳票テンプレートとのマッピングを行います。以下 3 つの設定を行います。

- ① テンプレートを選択
- ② データにビュー定義を指定
- ③ テンプレートの CSV フィールドとビュー定義のデータフィールドをマッピング
(左側「データ」(=テンプレートのフィールド名)と右側「データフィールド」(=ビューの出力項目)を結びつける)

「td2」のデータには明細データを指定します。

マッピング：定義：出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

Documentizer

プロパティ

データ 明細

出力ファイル名 Live側の帳票テンプレートを指定します。 CloseDate

テンプレート simple_opplist_for_manual_vf

td2

データ 明細

No	データ	データフィールド	画像
1	CloseDate	CloseDate	
2	Owner	Owner	
3	Opportunity	Opportunity	
4	Account	Account	
5	Amount	Amount	

自動マッピング

「自動マッピング」でテンプレートと簡単にマッピングができます。

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配属

マッピングが完了したら、「配属」をクリックしてください。

7. 出力ボタンの作成

kintone のレコード画面から帳票を出力するボタンを作成します。

kintone のレコード画面から ViewFramer で帳票出力をするためには、出力をリクエストするボタンを kintone 上に作成する必要があります。

1. まず、プラグインの設定をします。

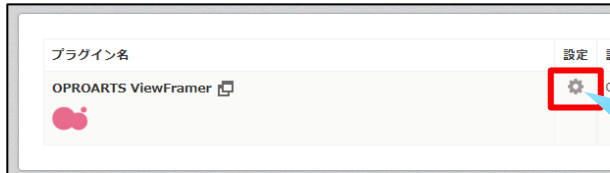
ボタンを設置したいアプリ(ここでは「案件情報」アプリ)の設定画面を開き、[設定]からプラグインを選択します。



2. [プラグインを追加]をクリックすると、OPROARTS ViewFramer のプラグインが表示されます。
チェックボックスにチェックをいれて、[追加]をします。



3. 次に[設定]をクリックし、ボタン設置設定の「追加」をクリックします。



4. [追加]をクリックすると、このアプリ上で出力が可能なマッピングの一覧が表示されます。
出力したいマッピングを選んで、追加をします。
追加後、「保存」をクリックし、アプリの更新を行ってください。

マッピング設定選択ダイアログ

	マッピング名	タイプ
<input type="radio"/>	BizFAX_kn_D3Worker	単票型
<input type="radio"/>	BizFAX_kn_Documentizer	ヘッダー明細型
<input type="radio"/>	CloudSignKintone	単票型
<input type="radio"/>	CloudSignKintone_Preview	単票型
<input type="radio"/>	CloudSignKintone_tsdemo	単票型
<input type="radio"/>	CloudSingnKintone01	単票型
<input type="radio"/>	CloudSingnKintone02	単票型
<input type="radio"/>	CloudSingnKintone_rd	単票型
<input type="radio"/>	DCSS_for_kintone_Hearingsheet	単票型
<input type="radio"/>	Kintone_CloudSign	単票型
<input type="radio"/>	Kintone_GMOAgree_keiyakusyo	単票型
<input type="radio"/>	Label_Output	一覧型
<input checked="" type="radio"/>	OpportunityList	一覧型

5. 操作の「編集」から、ボタンの詳細設定が行えます。

ボタン
ここで設定したボタンがアプリに表示されます。

マッピングを選択してボタンを追加します。

	マッピング名	ボタン名	ボタンの種類	タイプ	設置場所	開発中	出力形式	操作
<input type="checkbox"/>	OpportunityList	出力	出力	一覧型	リストページ	開発中	PDF	<input type="button" value="編集"/>

6. 開発中にチェックを入れると、開発中ボタンを「表示する」と設定したユーザーにのみこのボタンが表示されます。ボタンを全てのユーザーに対して表示したい場合は、チェックを外してください。

設置場所	リストページ
開発中	<input checked="" type="checkbox"/> オンにすると特定のユーザーのみに表示されます。

7. 出力バージョンを指定します。

出力設定	
設定名	値
出力バージョン	Ver.3 <input type="button" value="v"/>

Point

出力バージョン(Ver. 2、Ver. 3)の違いは以下ページに記載の通りです。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(kintone\)](#)

8. パラメータ「Record_Number」に「レコード番号」を指定し、「変更する」をクリックします。

パラメーター	
パラメーター名	値
Record_Number	<input type="button" value="項目名"/> <input checked="" type="button" value="レコード番号"/>
<input checked="" type="button" value="変更する"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

9. 全体を[保存]し、アプリを更新します。

	マッピング名	ボタン名	ボタンの種類	タイプ	設置場所	開発中	出力形式	操作
<input type="checkbox"/>	OpportunityList	出力	出力	一覧型	リストページ	開発中	PDF	編集

削除 選択したボタンを削除します。

前処理/後処理
 帳票出力処理の前後に処理を差し込みたい場合は、処理を記述したJavaScriptファイルを指定してください。

前処理: No file chosen

後処理: No file chosen

10. 保存が完了したら、作成したアプリの詳細ページにボタンが表示されます。

クリックすると、表示されているレコードの情報を使用し、指定したレイアウトの帳票が出力されます。

案件情報

アプリ: 案件情報

案件ごとに、受注の確度や金額はもちろん、商談の履歴も記録できるアプリです。
 「顧客情報」アプリから、顧客の会社名や担当者名をルックアップして関連付けることができます。

案件一覧

顧客名	案件名 ↑
サンプル取引先	商談1
サンプル取引先	商談2
サンプル取引先	商談3
サンプル取引先	商談4
サンプル取引先	商談5

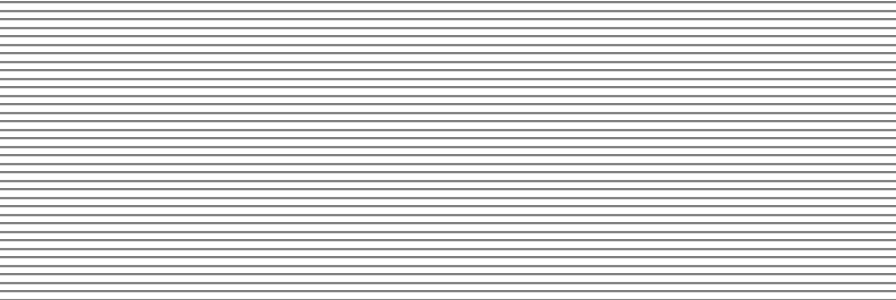
商談一覧

完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額
2019/09/27	山田 桃太郎	商談5	サンプル取引先	50,000
2019/09/27	山田 桃太郎	商談4	サンプル取引先	40,000
2019/09/27	山田 桃太郎	商談3	サンプル取引先	30,000
2019/09/27	山田 桃太郎	商談2	サンプル取引先	20,000
2019/09/27	山田 桃太郎	商談1	サンプル取引先	10,000


Page 1

Point

絞り込まれているレコード（画面上に表示されているレコード）を出力します



ViewFramer
ユーザーガイド
kintone ver.
(PDF/一覧)



発行元 株式会社オプロ